



題字 井口 文章
再刊 第410号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2023

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：58回生の卒業式開催 58回生の皆さん
卒業おめでとうございませす！
二面：1年生が行った探究を特集
卒業生講演会開催

人生の岐路を迎えて

58回生卒業式挙行

3月18日(土)に第1体育館にて、第58回卒業証書授与式が行われた。在校生は参加できなかったが、卒業生470名はたくさん先生の先生や保護者に見守られながら、錦城高校を旅立った。

迎えた旅立ちの日

昨年の卒業式と同様に雨が降る中、3月18日(土)に58回生の卒業式が実施された。式は保護者参加のもと、第1体育館で行われた。校歌斉唱、全体合唱は昨年度と同様に行われ、放送での実施となった。卒業証書授与では各クラスの前で、卒業生一人一人の名前が呼ばれ、大きな声の返事が会場に響いた。証書は各クラスの代表が壇上へ上がって校長先生から受け取った。卒業生が退場するときには『旅立ち



校長先生から生徒へ手渡された

互いへの感謝を込めて

在校生代表として送辞を述べたのは、現生徒会長の高梨恭一さん(2)。冒頭、3年



先輩への尊敬を込めて

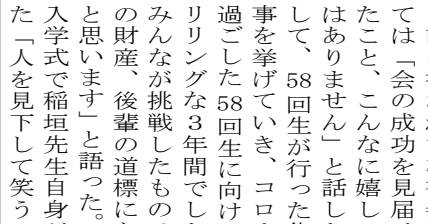
法学部での学びを知る

2月25日(土)に視聴覚室Bで、54回生の上村日奈子さんによる講演会が行われた。上村さんは錦城高校を卒業後、中央大学法学部に進学し、今年4月から東京大学法科大学院に進む。講演の初めに「法律とは社会で過ごす人が心地よく生きていくためのルールです」と語った上村さん。法学部の授業では民法や刑法などの「基本7法」と呼ばれる法律を学び、加えて専門性のある法律などを学ぶという。法学部の利点は、物事を論理的に考え、妥当性のある判断を導く法的センスである『リーガルマインド』を身につけられることだ。法学部卒業後の学生の就職先は多岐にわたる。経営を行う上で法律遵守は避けて通れないため、法律を知っている法学部生は会社から重宝されるのだそう。



質疑応答も行われた

上村さんは大学について「高校はやらなければいけないことが決まっていたけれど、大学は自由に選べる部分が多いです。その中で、興味がある分野を深めていくうちに興味も変わっていき、最終的に興味がなくなった分野も知ることになります」と語る。そして、上村さんは「勉強するときはモチベーションを求めず」と話した。講演終了後に上村さんに話



最後の言葉を贈る

生に向けて「卒業を前にした今、皆さんにはどのような景色が見えているでしょうか」と質問した。現在の2年生が3年生と最初に対面したのは、2年前の4月、新入生歓迎会の日だ。当時を振り返って「入学して間もなく59回生を、先輩方は優しく導いてくれました」と話す。また、球技大会では3年生の活躍に魅了されたそう。チームの一員として戦ったり、仲間を応援したりする背中には、先を聞く、法学部に進んだのは法曹に憧れがあり、自分が将来法曹になる可能性を残すためだ。また法学部に入学して大変だったことを「学部の大変さについて話したい」と話した。その両立が大変だったと話す。錦城生に向けて「勉強は大変だと思いますが、今の大きな目標をおけば大学では楽になると思います。なので、目の前のことをコツコツ行っていくことが大事です」と呼びかけた。



今後の目標を語る

今後の目標を藤生さんは「夢を叶えられるように頑張りたいです」と意気込んだ。また、58回生は新型コロナウイルスの感染拡大が始まった

阿部 一郎校長先生は式辞で、自然災害に関するニュースを挙げて「幸せな瞬間を当たり前だと思ってしまうがちですが、実際の幸せは簡単に壊れてしまいます」と話した。そして58回生に向けて、本日の幸せとは何かと問いかけ「お金では買えない礼儀正しき、思いやりなど目に見えない何かを持つことだ」と語る。また『「こころざし」』『我慢』『出会い』を大切にしてください』と力を込めて話した。また、絵本作家の葉祥明の詩『母親というものは無欲なもので、母を泣かすのはこの世で一番いけないことなのですよ』という詩を挙げて「両親は子供のためなら何でもできる、それは見返りを分けても強要量が大きく変化してしまっています。具体的な目標に向けてのタスクを決めて、習慣的にやるのが大切

華としての「格好良さ」があったという。「後輩として多くを学んだことは、僕たちの誇りであり、嬉しいことです」と話す高梨さん。最後に在校生を代表して卒業生にエールを送り、送辞を締めくくった。

旧生徒会長の藤田和望さん(3)は卒業生代表として答辞を述べた。最初に保護者や教員の皆様、来賓の方に対して卒業式という場を開いてくれたことに対する感謝を述べた。次に3年間を振り返って「コロナ禍の入学から始まった3年間は、行事の中止や制限が多く困難な日々が続きました。残念だったこともありすが、様々な思い出の深い体験をすることができました」と藤田さん。また「3年間多くのことを行って、大きく成長できました。今更け支えてくれた皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです」と話した。そして最後に「在校生と教員の皆様、これからのますますのご健勝をお祈り致します」と答辞を締めくくった。

切り開いた挑戦の3年間

藤生穂乃花さん(3)は錦城高校で過ごした3年間に「勉強と新聞委員会の活動の両立が本当に難しく、何度も辞めたいと思ったのですが、今考えると最後までやりきった良かったと思います」と振り返る。これから大変なことが起こっても、自分が3年間続けてきたことを思い出して、乗り越えていきたいそう。文藝部に所属していたという宇治音乃さん(3)は「夏の暑い中、エアコンのない印刷室でたくさん印刷したのは、辛かったけれど楽しかったです」と思い出を話した。

た年に錦城高校に入学し、授業や行事など様々な場面で我慢しながら3年間を過ごしてきた。錦城でやりたかったけれどできなかったことについて尋ねると「やはり学校行事もつとやりたかった」と二人は話す。藤生さんは1年生の時、合唱同好会に所属しておりましたが、合唱祭をやりたいという思いで、1年生で3年ぶりに合唱祭を開催したことを聞いて、あと1年遅く入学していただけたら参加できたな、と思った。

むらさき草

日本で新型コロナウイルスの感染拡大が始まったから私たちがマスクをつけて生活することになった。それは当たり前のことになってしまった。それから3年が経過した今年3月13日(月)から、マスクの着用を個人の判断で決められるようになった。しかし、マスクをとりたくないと考えている人もいます。その理由には感染対策だけでなく「顔を隠したい」、「人からどう見られるのが怖い」などといった、不安を抱える人が多いこともあるという。私たちは高校に入学してからずっとマスクをつけているため、クラスメイトの印象はマスクをつけていることの方が強いだろう。マスクがある状態からマスクを外すのが怖くて、食事もあり人前でとりたくないと感じている。マスクをつけて生活することは今や習慣になってしまった。しかし、かつてはマスクをつけることは当たり前であり、多くの人が顔を出していた。私はマスクを外したくない理由には、習慣を変えることに不安があるからではないかと思う。新型コロナウイルス対策を徹底した生活が今の私たちに当たり前の生活になってきているのではないだろうか。今年5月には新型コロナウイルスの感染法上の分類が季節性インフルエンザと同じ『5類』に分類される。これによってさらにコロナ禍以前の生活に戻っていくだろう。マスクをつけずに話すことがまた当たり前の日々になっていく。私も苦手を克服して、マスクを脱いで学校で過ごしてみたい。

1年渾身の黑板报アート!

友達とパジャリ

真剣に話を聞く

卒業証書を受け取る

感謝の思いを伝える

最後のHR...

みんなで一枚

卒業式グラフィティ!

温かい拍手に包まれて...

担任より最後の呼びかけ

一年間の集大成

1学年探究発表会開催

60回生が3学期に「総合的な探究」として3つの分野の探究に取り組み、自分たちで設定した課題に沿った発表を各クラスで行った。そして各分野で最も優れた案を提案した班が決定された。今号では発表内容の実現に向けて活動する班の活動内容や目標などについてお届けする。(編集部共同取材)

60回生探究の歩み

60回生は年度初めから探究の授業として「エナジード」に取り組み、3学期から小平、山形、SDGsの三分野に分かれてそれぞれの班が設定した課題の解決に向けての探究が行われた。2月22日(水)は小平、山形について探究を行ったクラスの代表班が職員室前のコンンススペースから各クラスに向けてオンラインで発表をし、SDGsは多目的ホールに集まって代表班の発表を行った。

発表した生徒以外は自身が探究した分野の班の中で1位を決めた。今回の発表で1位になった班はそれぞれの舞台で実現に向けて活動をする。



B組の代表がオンラインで発表する様子

私を蔵王に連れてって

「私を蔵王に連れてって」というテーマで行われる山形のPRの代表者に選ばれたB組のグループは「移住型ワーケーション」という短期的な移住と仕事体験を組み合わせたアイデアを提案した。この取り組みは錦城生の山形県へのインターン計画で、錦城生側にも山形県側にもメリットがあるものだと話す。「トライ&エラーを繰り返して、互いに活性化させるのが目的です」と発表会で語ってくれた。

また、この移住型ワーケーションは和歌山県などのほかの県も行っているという具体的な事例を挙げたうえで「移住者を増やすことが目的です」と話した。

B組代表のグループは山形の活性化により人の移住と労働力の増加が見込めると語り、そのことがほかの移住者への足掛かりとなると、山形県全体の人口が増加する可能性がある」と発表してくれた。

野菜で小平を盛り上げる

「小平A.K.A.錦城」に取り組んだC組代表は「野菜新2年生へは日々の授業の予習・復習を大切にすること、大学について調べ、現時点での志望校を定めて勉強への意欲を高めること、部活動などの勉強以外の活動に全力で取り組むことの3つを大切にしたい」と話した。

H組は「ペットボトルキャップで世界を救う！」をテーマに、錦城で実現するペットボトルキャップのリサイクルについてパワーポイントと動画を順に説明してくれた。7月までは2年生の時と変わらない勉強を続けると話す。夏休みから本格的な受験勉強を始め、塾に通っていない戸田さんは学校の夏期講習を積極的に受けた。また、分らないことは何でも先生に質問したり、進路の相談などもしたりしたという。戸田さんは受験勉強をするうえで忘れないでほしいこととして「基礎を見直して下さい。学校で学んだことを完璧にしないと演習でできません」と伝えてくれた。(月・白)

キャップから広がる世界

また、規格外の品も買い取ることでフードロスの削減も可能になるという。最後に「小平産の野菜で小平を盛り上げていきましょう」と話し、発表を終えた。

自発的な課題解決へ

平成30年に改訂された学習指導要領によって、与えられたテーマについて調べて発表する「総合的な学習」から自分たちでテーマを設定して調べ発表する「総合的な探究」へと変化した。そして今年、60回生から探究の授業が本格的に始まった。今年度の探究担当の先生である西塚先生によると、探究のテーマは「私たちが学校外の社会に目を向けること」を目標に設定されたという。

実現に向けて活動することになった小平、山形、SDGsの班に向け、一つのゴールへの過程をいろいろな可能性を踏まえて用意することが実現へのポイントだと西塚先生は話す。今年度学んだことをどうやってこれからの活動に活かして欲しいかについては「エナジードで学んだ考え方のサイクルは探究の企画や勉強、将来の仕事に活かせるので、知っただけで終わらないで実践してほしいです」と答えてくれた。

学年を越えた探究

11月4日(金)と22日(水)に1・2年生の代表生徒による交流会が開かれた。この会は、修学旅行で山形へ行く2年生に対し、山形を舞台に探究活動をしている1年生が質問をし、それに答える形で2年生が実際に足を運んで感じた喜びを話した。

を通じた小平を活性化」を目標とした。小平市の課題の一つは、小平にはブルーベリーだけでなく、ゴールドキウイや梨なども盛んに生産されているにも関わらず、それを大多数の人が知らないことだといふ。

この課題の解決策として錦城祭で小平産の農産物を販売することをあげた。小平市には、住宅地や学校の周りに畑が設置されている。農産物を卸売したり、運送の過程で腐敗したり、運送の過程で二酸化炭素の排出量が増えてしまったりする。しかし、直売所で販売することでコストが削減でき、新鮮で安価な野菜を消費者が購入できるという。この点を活用して、小平の農家と消費者をつなぐために直売所から野菜を仕入れ、錦城祭で売ること考えた。また、錦城祭には、OBや保護者、中学生が集まるため、小平産の野菜を認知してもらいやすいといふ。

また、規格外の品も買い取ることでフードロスの削減も可能になるという。最後に「小平産の野菜で小平を盛り上げていきましょう」と話し、発表を終えた。

H組は「ペットボトルキャップで世界を救う！」をテーマに、錦城で実現するペットボトルキャップのリサイクルについてパワーポイントと動画を順に説明してくれた。7月までは2年生の時と変わらない勉強を続けると話す。夏休みから本格的な受験勉強を始め、塾に通っていない戸田さんは学校の夏期講習を積極的に受けた。また、分らないことは何でも先生に質問したり、進路の相談などもしたりしたという。戸田さんは受験勉強をするうえで忘れないでほしいこととして「基礎を見直して下さい。学校で学んだことを完璧にしないと演習でできません」と伝えてくれた。(月・白)

また、規格外の品も買い取ることでフードロスの削減も可能になるという。最後に「小平産の野菜で小平を盛り上げていきましょう」と話し、発表を終えた。

H組は「ペットボトルキャップで世界を救う！」をテーマに、錦城で実現するペットボトルキャップのリサイクルについてパワーポイントと動画を順に説明してくれた。7月までは2年生の時と変わらない勉強を続けると話す。夏休みから本格的な受験勉強を始め、塾に通っていない戸田さんは学校の夏期講習を積極的に受けた。また、分らないことは何でも先生に質問したり、進路の相談などもしたりしたという。戸田さんは受験勉強をするうえで忘れないでほしいこととして「基礎を見直して下さい。学校で学んだことを完璧にしないと演習でできません」と伝えてくれた。(月・白)

H組は「ペットボトルキャップで世界を救う！」をテーマに、錦城で実現するペットボトルキャップのリサイクルについてパワーポイントと動画を順に説明してくれた。7月までは2年生の時と変わらない勉強を続けると話す。夏休みから本格的な受験勉強を始め、塾に通っていない戸田さんは学校の夏期講習を積極的に受けた。また、分らないことは何でも先生に質問したり、進路の相談などもしたりしたという。戸田さんは受験勉強をするうえで忘れないでほしいこととして「基礎を見直して下さい。学校で学んだことを完璧にしないと演習でできません」と伝えてくれた。(月・白)

H組は「ペットボトルキャップで世界を救う！」をテーマに、錦城で実現するペットボトルキャップのリサイクルについてパワーポイントと動画を順に説明してくれた。7月までは2年生の時と変わらない勉強を続けると話す。夏休みから本格的な受験勉強を始め、塾に通っていない戸田さんは学校の夏期講習を積極的に受けた。また、分らないことは何でも先生に質問したり、進路の相談などもしたりしたという。戸田さんは受験勉強をするうえで忘れないでほしいこととして「基礎を見直して下さい。学校で学んだことを完璧にしないと演習でできません」と伝えてくれた。(月・白)

H組は「ペットボトルキャップで世界を救う！」をテーマに、錦城で実現するペットボトルキャップのリサイクルについてパワーポイントと動画を順に説明してくれた。7月までは2年生の時と変わらない勉強を続けると話す。夏休みから本格的な受験勉強を始め、塾に通っていない戸田さんは学校の夏期講習を積極的に受けた。また、分らないことは何でも先生に質問したり、進路の相談などもしたりしたという。戸田さんは受験勉強をするうえで忘れないでほしいこととして「基礎を見直して下さい。学校で学んだことを完璧にしないと演習でできません」と伝えてくれた。(月・白)

H組は「ペットボトルキャップで世界を救う！」をテーマに、錦城で実現するペットボトルキャップのリサイクルについてパワーポイントと動画を順に説明してくれた。7月までは2年生の時と変わらない勉強を続けると話す。夏休みから本格的な受験勉強を始め、塾に通っていない戸田さんは学校の夏期講習を積極的に受けた。また、分らないことは何でも先生に質問したり、進路の相談などもしたりしたという。戸田さんは受験勉強をするうえで忘れないでほしいこととして「基礎を見直して下さい。学校で学んだことを完璧にしないと演習でできません」と伝えてくれた。(月・白)

H組は「ペットボトルキャップで世界を救う！」をテーマに、錦城で実現するペットボトルキャップのリサイクルについてパワーポイントと動画を順に説明してくれた。7月までは2年生の時と変わらない勉強を続けると話す。夏休みから本格的な受験勉強を始め、塾に通っていない戸田さんは学校の夏期講習を積極的に受けた。また、分らないことは何でも先生に質問したり、進路の相談などもしたりしたという。戸田さんは受験勉強をするうえで忘れないでほしいこととして「基礎を見直して下さい。学校で学んだことを完璧にしないと演習でできません」と伝えてくれた。(月・白)

H組は「ペットボトルキャップで世界を救う！」をテーマに、錦城で実現するペットボトルキャップのリサイクルについてパワーポイントと動画を順に説明してくれた。7月までは2年生の時と変わらない勉強を続けると話す。夏休みから本格的な受験勉強を始め、塾に通っていない戸田さんは学校の夏期講習を積極的に受けた。また、分らないことは何でも先生に質問したり、進路の相談などもしたりしたという。戸田さんは受験勉強をするうえで忘れないでほしいこととして「基礎を見直して下さい。学校で学んだことを完璧にしないと演習でできません」と伝えてくれた。(月・白)

「戦争は一次的に反対するものではないと思います。継続してこそ『戦争』の悲惨さ、賞の表彰が行われた。優秀賞を受賞したのは渡辺千紗さん(1E)。優秀賞を取った感想を「私は新聞委員なので、このような賞を貰うことができ、とても嬉しいです」と話す。

渡辺さんの作品は『正義なき戦争』繰り返される歴史だ。渡辺さんは昨年から続いているロシアによるウクライナ侵略をきっかけに、この作品を制作。第二次世界大戦という人類史上最大の戦争から77年経った今でもこのような争いがどうして繰り返されるのかという疑問が制作の動機だったそうだ。

また、渡辺さんは終戦の日近くだけ戦争の記事を組む新聞社に疑問を覚えたそうだ。また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

「戦争は一次的に反対するものではないと思います。継続してこそ『戦争』の悲惨さ、賞の表彰が行われた。優秀賞を受賞したのは渡辺千紗さん(1E)。優秀賞を取った感想を「私は新聞委員なので、このような賞を貰うことができ、とても嬉しいです」と話す。

渡辺さんの作品は『正義なき戦争』繰り返される歴史だ。渡辺さんは昨年から続いているロシアによるウクライナ侵略をきっかけに、この作品を制作。第二次世界大戦という人類史上最大の戦争から77年経った今でもこのような争いがどうして繰り返されるのかという疑問が制作の動機だったそうだ。

また、渡辺さんは終戦の日近くだけ戦争の記事を組む新聞社に疑問を覚えたそうだ。また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

「戦争は一次的に反対するものではないと思います。継続してこそ『戦争』の悲惨さ、賞の表彰が行われた。優秀賞を受賞したのは渡辺千紗さん(1E)。優秀賞を取った感想を「私は新聞委員なので、このような賞を貰うことができ、とても嬉しいです」と話す。

渡辺さんの作品は『正義なき戦争』繰り返される歴史だ。渡辺さんは昨年から続いているロシアによるウクライナ侵略をきっかけに、この作品を制作。第二次世界大戦という人類史上最大の戦争から77年経った今でもこのような争いがどうして繰り返されるのかという疑問が制作の動機だったそうだ。

また、渡辺さんは終戦の日近くだけ戦争の記事を組む新聞社に疑問を覚えたそうだ。また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

映画の世界を表現

2月18日(土)と21日(火)の2日間に渡ってダンス部がホールで公演を行った。今回の公演のテーマは「映画」で、全ての映画の世界観に合わせて選曲、振り付け、衣装、照明を部員全員で選び、こだわって作ったそうだ。公演の初めは男子部員によるコミカルなナレーションから始まり、その熱のままダンスが始まった。大人数のフォーメーションが組まれた組織的なダンスからデュオによるダンスと幅広い種類のものが行われた。公演を通してダンス部員の山崎莉音さん(2G)は「コロナによって制限されていた私たちの代にとってはお客さんを入れての初めての冬の定期公演だったので、とにかく無事に公演を終えることが出来た本当によかったです。声を出して盛り上げてくれて私たちもとても楽しかったです」と振り返った。「今回の公演『The Cinema』を見に来てくださった方々、ありがとうございました。たくさんの方に「良かったよ」と言って頂けて本当に嬉しかったです」と語る山崎さん。最後に「今回の公演を見逃してしまった人は、是非文化祭の公演にお越しください。今回の公演を超える作品を届けられるよう、日々練習に励んでいます。たくさんの方のご来場お待ちしております」と呼びかけた。(桂)



力強くダンスを踊る

また、60回生の取り組み方について、積極的に取り組む人が多く、躊躇している人が少なかったことが良かったという。また「自分の利益に関わることを取り上げて活動するのはいいけれど、発表するときは自分の利益が前面に見えてしまっている班があった」と話した。

君も今日から「受験生」

受験勉強のアドバイス

3月14日(火)に新2、3年生を対象に3年生による進路懇談会が行われた。2Fでは大金慶馬さん(3C)、大木菜々子さん(3C)、熊木瑛心さん(3A)が話してくれた。内容は「いつ志望校を決めたのか」から「1、2、3年生ごとの具体的な勉強法」など、これから受験するにあたって参考になる情報が多く、参加

者はメモを取りながら聞いていた。最初に話した大金さんは錦城生に向けて「3年の初めの模試から共通テストまで、少なくとも100点以上伸びるので最後まで諦めないでください」と話す。大木さんと熊木さんは「全ての授業での先生の話は実は色々なことに繋がっているのだから一つ一つの授業を大切に受けてください」「早いうちにオープンキャン

パスやネットなどで情報を集めて、目的意識をしっかりと持ち、モチベーションを上げて受験勉強をしてほしいです」とメッセージを送った。

基礎を大切に

北里大学薬学部薬学科に合格した戸田さん(3K)は、新2年生、新3年生のそれぞれがこれからの1年間どのような勉強をするべきかを話して

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新2年生へは日々の授業の予習・復習を大切にすること、大学について調べ、現時点での志望校を定めて勉強への意欲を高めること、部活動などの勉強以外の活動に全力で取り組むことの3つを大切にしたい」と話した。

実際の参考書を示す



新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

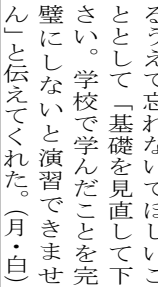
新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新2年生へは日々の授業の予習・復習を大切にすること、大学について調べ、現時点での志望校を定めて勉強への意欲を高めること、部活動などの勉強以外の活動に全力で取り組むことの3つを大切にしたい」と話した。

積極性を評価する



新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新2年生へは日々の授業の予習・復習を大切にすること、大学について調べ、現時点での志望校を定めて勉強への意欲を高めること、部活動などの勉強以外の活動に全力で取り組むことの3つを大切にしたい」と話した。

大会報告

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新2年生へは日々の授業の予習・復習を大切にすること、大学について調べ、現時点での志望校を定めて勉強への意欲を高めること、部活動などの勉強以外の活動に全力で取り組むことの3つを大切にしたい」と話した。

生徒会動静

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新2年生へは日々の授業の予習・復習を大切にすること、大学について調べ、現時点での志望校を定めて勉強への意欲を高めること、部活動などの勉強以外の活動に全力で取り組むことの3つを大切にしたい」と話した。

部活動勧誘広告募集します!

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新2年生へは日々の授業の予習・復習を大切にすること、大学について調べ、現時点での志望校を定めて勉強への意欲を高めること、部活動などの勉強以外の活動に全力で取り組むことの3つを大切にしたい」と話した。

新入生が入学する四月。新年度の活動予定日や活動場所、イラストなどを記載した広告を募集します!

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新2年生へは日々の授業の予習・復習を大切にすること、大学について調べ、現時点での志望校を定めて勉強への意欲を高めること、部活動などの勉強以外の活動に全力で取り組むことの3つを大切にしたい」と話した。

部活動勧誘広告募集します!

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。

新3年生には時期ごとに組み込むべきことを実践してもらった。